

調剤過誤防止機能に薬剤師支援機能を付加した調剤支援システムの構築

○多根井 重晴<sup>1</sup>, 山下 修司<sup>1</sup>, 後藤 絵美<sup>1</sup>, 窪田 傑文<sup>1</sup>, 中村 光浩<sup>1</sup>, 堀内 正<sup>1</sup>, 中川 昇<sup>2</sup>, 櫻井 潔<sup>3</sup>, 杉山 正<sup>1</sup>(<sup>1</sup>岐阜薬大附属薬局, <sup>2</sup>トーション, <sup>3</sup>アレクシード)

【目的】計数調剤の過誤対策として、処方情報と薬品棚に貼付したバーコードを携帯端末で照合する過誤防止システムが多く開発されている。岐阜薬科大学附属薬局(以下、当薬局)では調剤過誤防止機能に薬剤師支援機能を付加した新たなシステムを構築した。今回、構築したシステムの概要と拡張性について報告する。

【方法】当薬局が応需する岐阜大学病院の処方せんには処方情報を変換したQRコードが印刷されている。当薬局では、QRコードを基に処方内容を電子化して薬袋の発行、料金の計算などを行っている。今回構築したシステムではその電子化情報を利用し、調剤者はApple社のiPhoneまたはiPod touch(以下、IP)に処方情報を取り込み画面に処方内容を表示させる。調剤する際には、あらかじめ錠剤棚に貼付したバーコードをIPで読み取り、処方薬との整合性のチェックをした後に計数調剤を実施する。この際に、画面には調剤する錠数が表示され、ハイリスク薬などでは処方鑑査上の注意事項などが表示される。調剤者および鑑査者は調剤薬をIPで撮影して保存できる。付加機能として、後発医薬品への変更を調剤時にIPから登録、IPで薬歴簿を入力、調剤者毎の作業量分析などが可能である。

【結果・考察】本システムによって、調剤者が自ら調剤時に過誤を検出することが可能になり、過誤対策が強化された。当薬局では実務実習生が錠剤の取り揃えを行う場合が多く、本システムは安全管理上有用なものとなっている。患者からの問い合わせ時には、処方内容に加え、いつ、誰が、何を調剤したのか検索可能であり、電話機能を利用して薬局外部からの検索も可能になった。この結果、時間外でも迅速に対応することが可能になった。本システムの導入により、将来的にはクラウドによる病院、薬局、患者間でのデータ共有が可能である。